

住まいに関するアンケート調査実施方針（案）

1 アンケート調査の目的

- 本調査の主な目的は「吹田市住宅マスタープラン（吹田市住生活基本計画）」改定に向けた計画検討の材料とすることとします。
- 平成 23 年度策定の現計画の評価を行うとともに改定計画のアウトカム指標の検討材料とすることを目的とします。
- 現在市内に居住する世帯主を対象に、住宅・住環境についての現状や意向を聴取し、市内の住宅・住環境の質を更に高め、吹田市として特徴があり魅力のある住環境の形成を検討していく材料とします。

2 調査方法について

（1）基本的考え方

①実施時期は策定期間の初期段階

- アンケート調査を実施するに当たり、社会経済状況、市の現状や市民意向を反映した、具体的な施策立案につながるような有意義なものとするために、実施時期は理念や施策の基本方針を検討する基礎調査の段階にすることが望ましいと考えます。

②調査対象の抽出方法

- 現計画策定時においても、市内居住者を対象にアンケート調査を実施しました。対象の抽出については、居住地区によって住宅・住環境の状況や考え方に差があるものと予測されることから、人口比率に合わせてブロックごとに無作為抽出を行う層化抽出法を採用しました。
- 今回も対象者は同様と考えています。

③回収率の想定

- 本調査では 3,500 票の発送を予定していますが、現計画策定時における回収率が 31.3%であったことから、同等の回収率（30%）と想定すると 1050 票程度の回収が見込まれます。
- 本調査において必要なサンプル数は統計学上 384 票程度とされますが、ブロック別集計に際しては、標準誤差を 10%としても各ブロック 96 票程度が必要であり、人口比率が最も小さい(約 9.1%)JR 以南地域でこの数を得るためには、全体で 1,050 票程度の回収が必要となる計算です。

必要な調査対象者数の算出式

$$n = \lambda^2 \frac{P(1-P)}{d^2}$$

n : 標本数（必要なサンプル数）
 P : 回答比率 = 0.5（最大となる値）
 d : 標本誤差（許容できる誤差の範囲）
 λ : 信頼水準 = 1.96（信頼度 95%）

(2) 調査方法

- ◆配布・回収方法：郵送配布・郵送回収方式
- ◆発送数：3,500 票（市内在住の 20 歳以上の世帯主の中から人口比率に合わせてブロックごとに無作為抽出）
- ◆回収想定：1,050 票程度
- ◆実施スケジュール：
 - ・6 月下旬：実施方針（案）作成、調査票（案）設計
 - ・7 月上旬：調査票印刷、発送作業
 - ・7 月中旬：調査票の発送（期間：3 週間程度）
 - ・7 月下旬：回収、集計開始
 - ・8 月上旬：分析、取りまとめ
 - ・8 月下旬：結果報告

3 設問構成について

(1) 基本的考え方

①前回調査における設問の基本的踏襲

- ・現計画策定時の調査結果と今回の調査結果の比較は、市民意識の変化等を客観的に把握するのに有効であることから、前回調査の設問については基本的に踏襲します。

②住宅・住環境施策に関する設問の追加

- ・近年の動向や新たな視点をふまえ、住み替えの動向や住まい方のニーズ、脱炭素社会に対する動向、コロナ禍における住まい方・くらしの変化などの把握を加味した設問・選択肢を追加し、意向を確認します。
- ・前回と同様に「今後の支援策として、行政が力を入れるべきもの」や「現在実施・活用している住宅・住環境関連の事業・制度」については、上記の視点から選択肢・例示を追加して意向を把握するとともに、事業・制度の市民への情報提供にも活用します。

③市民が回答しやすい設問の工夫

- ・設問のボリュームとしては、回答者の負担を減らし必要回収率を確保するため説明文を含めて A3 両面 2 枚（8 ページ）以内程度とします。